

SIPEC

School of International Politics, Economics and Communication

SIPEC

国際政治経済学部 海外研修案内
2007



青山学院大学
国際政治経済学部
www.sipeb.aoyama.ac.jp



青山学院大学

CONTENTS

学部長メッセージ	3
メリーランド大学	4
体験レポート	5
アメリカン大学	6
体験レポート	7
チェンマイ大学	8
体験レポート	9
国連研修	10
体験レポート	11
資料	12

掲載されている情報は、
2007年3月31日時点のものです。

学部長メッセージ



国際政治経済学部長
土山 實男
Tsuchiyama Jitsuo

自分を外国人の眼で見ることが できるようにするために ～海外研修のすすめ～

外国で暮らすと言葉に尽せない幸せがある、と社会学者ジンメルは日記抄に書いている。たしかに、海外にいると言葉や文化の違いもあり、自分の育った社会や自分自身を振り返って、アイデンティティや歴史について考え、喜んだり悲しんだりすることがあるように思う。そのことが人をより深く、また豊かにするのではないだろうか。

青山学院には、開学以来国際的な伝統があり、本学院に学ぶ者の眼をつねに海外に向けさせてきた。25年前に日本における国際学部の先駆けとして国際政治経済学部が創設されたのも、青山学院のこの伝統を受け継ぐためであり、実際、本学部はこれまでに多くの国際人を輩出してきた。

本学部の海外研修は、在學生にニューヨークの国連本部や世界をリードする大学で、現場の専門家や教授から話を聞き、肌で世界を感じてもらうために実施しているプログラムであり、毎年、70～80人が参加している。

国連本部は、いうまでもなく国際政治の檣舞台である。例年、日本の国連大使にも特別講演をお願いし、国連職員によるセミナーなどがある。アメリカン大学は、国際関係・開発の教育と研究で米国でも最大級の教授陣を擁する国際外交学部をもっている。ケネディ大統領が軍縮を提案した「アメリカン大学演説」でも知られる。メリーランド大学(カレッジパーク校)は1,200エーカー(147万坪、青山キャンパスは4万坪)の広大なキャンパスをもつ150年の歴史のある総合州立大学で、物理学、経済学、公共政策など31のプログラムでアメリカの州立大学中トップ10にランクされている。教授3人がノーベル賞を受賞しており、6人のピューリッツァー賞受賞者をふくむ3,752人の専任教員がいる。日本の占領期の膨大な史料をはじめとする「プランゲ・コレクション」は日本研究の拠点である。チェンマイ大学はタイの名門国立大学で、同大ではアジアの政治や経済についても学び、タイの地方などにも足をのぼす。

わたし自身も若い時に何年か海外に学んだひとりである。いま教える身になってみて、とにかく外へ出てみなさい、と日本で育った学生諸君に申し上げたい。短期間でも、海外に出てみて初めて体でわかること一たとえば外国人の眼で自分や日本を見ること一があるからである。

国連本部(ニューヨーク)

メリーランド大学 University of Maryland



メリーランド大学はノーベル経済学賞受賞者T・シェリング教授らを擁する全米トップクラスの総合州立大学で、2007年度からは青山学院大学との間で交換留学(協定校)の制度もスタートします。約2週間の日程で行われる研修は、同大学のMaryland English Instituteが本学部生のために企画した語学研修を中心にすすめられます。語学を集中的に学ぶとともに、アメリカの文化や教育などについての講義も行われ、アメリカ社会について様々な角度から理解を深めます。また、現地の博物館やワシントンDCの政府機関を視察するフィールドトリップも豊富に組み込まれており、アメリカの文化や政治をバランス良く学習・体験できるプログラムです。



緑に囲まれた美しいキャンパス

広大なキャンパスで
過ごした2週間は、
見るもの全てが新鮮



初めての海外経験で得た多くの出会い

国際経済学科2年 堰八 紗也佳

私にとって初の海外がこのメリーランド大学での研修でした。この研修の中で私はたくさんの出会いを経験しました。不安がいっぱいの私を温かく迎えてくれた学生サポーターの方たち。優しく丁寧に勉強を教えてくれた先生たち。英語が上手なくても、気持ちがあればすぐに仲良くなれます。そして、共に研修を受けた仲間たちとは、一生の仲になりました。

授業では一人ひとり英語のブログを作りました。日本に帰った今でもチャットで交流を持ち、ブログを通して全員と繋がっています。メリーランド大学の中にはボウリング場やゲームセンターや映画館もあり、日本ではとても想像がつかないような広さです。一歩建物から外へ出ると、そこには広大な緑が広がっていて、たくさんの動物たちが気持ち良さそうに暮らしていました。

見るもの全てが新鮮で、心も体も全てがリフレッシュされた気分でした。この感動を一人でも多くの人たちに体験して欲しいと思います。

単位認定

研修中の評価と、レポート等を提出し、所定の手続きをすることにより、所属学科の「国際政治学特殊講義」、「国際経済学特殊講義」あるいは「国際コミュニケーション特殊講義」として2単位修得可能。

プログラム

Aug 2	Arrivals & Brief Campus Tour	Aug 9	9:00-10:00 Reflections
Aug 3	10:00-11:30 Observations about American Culture		10:00-11:45 Learn about Educations in the U.S.
	11:30-12:00 Lunch with Student Mentors		13:00-15:00 American Student Life (Panel Discussion)
	13:30-15:00 Orientation to Activities	Aug 10	9:00-10:00 Reflections
	15:15-16:45 Welcome Reception		10:00-11:00 Learn about the roles of states
Aug 4	All day trip to Washington DC		13:00-13:00- Visit the Prange Collection
Aug 5	Visit to the National Museum	Aug 11	All day trip to Annapolis, Maryland
Aug 6	9:00-10:00 Reflections: Team Journal and Individual Diary Assignments	Aug 12	All day trip to Alexandria, Virginia
	10:00-11:45 Briefing on Conducting Cultural Observation	Aug 13	9:00-10:00 Reflections
Aug 7	9:00-10:00 Reflections		10:00-11:45 Learn about U.S. Media
	10:00-11:45 Learn about American Family Value		13:00-15:00 Visit to Local Media
	13:00-15:00 Family Life in the U.S. (Panel Discussion)	Aug 14	9:00-10:00 Reflections
Aug 8	9:00-10:00 Reflections		10:00-11:45 Topic: TBA
	10:00-11:45 Learn about the U.S. as a Nation of Immigrants and Cultural Diversity		13:00-15:00 Visit to Local Media
	14:00 Visit 3 Areas of Washington DC that reveal the Cultural Diversity of this city	Aug 15	9:00-12:00 Wrap-up: Share Cultural Observations
			13:00-14:00 Program Evaluation
			14:00 Closing Ceremony, Awarding of Certificates
		Aug 16	Departures

2007年8月実施予定のプログラムです。

内部からしか見えないアメリカに触れた

国際政治学科1年 高野 文徳

参加が決まってから、はじめに思ったことは不安でした。特に僕は友人を誘わずに参加を希望し、ましてや入学して数ヶ月で申し込みが始まってしまうのもでしたから。しかしながら、そんな不安もなんのその、その実たるやアメリカの文化に触れる絶好の機会だと思います。

そこで生きている人に会い、一部となって内部からしか見られないものを見る。例えば、コンビニの店員は無愛想であるとか、どこでも話しかけてくる人が多いとか。そしてそこで出会えた人たち、アメリカでお世話になった人々や一緒に参加して集まった人たちは、一生の財産になるかと思っています。

2週間は全くあっという間に過ぎ去ってしまったのですが、濃密で有意義な時間を過ごせました。学部として団体での研修となるので、英語を使う機会が若干少ないと思う部分もありましたが、次の一歩を考える契機ともなりえます。

大学側が用意してくれるこのようなプログラムを通して、自分の世界を一步広げてみるのもお勤めできる大学生活です。



アメリカで過ごした
濃密で有意義な時間。
次の一歩を考える
ヒントを与えてくれる



アメリカン大学 American University



アメリカン大学は首都ワシントンDCに位置する利点から、国際関係を中心とする教育・研究分野で高い評価を得ている大学です。同大学のSchool of International Serviceにより提供される約2週間のプログラムでは、語学研修に加えてアメリカの外交、アメリカのアジア政策、国際関係などについても講義を受けます。また、参加者は学内の学生寮で生活するため、アメリカの寮生活を体験することもできます。世界銀行などの国際機関や日本大使館を視察・訪問する機会も設けられ、アメリカの政治の中心地で国際政治経済についての理解・関心を深め、ワシントンの“今”を肌で感じることができるプログラムです。

■ 単位認定

研修中の評価と、レポート等を提出し、所定の手続きをすることにより、所属学科の「国際政治学特殊講義」、「国際経済学特殊講義」あるいは「国際コミュニケーション特殊講義」として2単位修得可能。



アメリカ政治の中心地で学べるメリットは大きい

ふれあいを通して
得た相互理解。
“地球人”としての
自覚が芽生えた



L.グッドマン国際外交学部長とともに

直接身を置くことで見えてきたアメリカ社会

国際コミュニケーション学科1年 近藤 麻里恵

わずか2週間のアメリカン大学の研修。それが、今の私の自信と自覚に繋がっている。英語をツールとしてコミュニケーションを取ることができたという自信と、アメリカ人も日本人もみんな同じ「地球人」であるという自覚だ。研修プログラムでは、午前中に英語で講義を受け、その後講師のBarry先生が時間を割いて下さり、世界平和や愛、音楽について熱く語り合うことができた。午後は数人の学生ごとに現地の学生がConversation Partnerとして1人付き、私のグループでは格好良く優しいLisaがアーリントン国立墓地やホワイトハウス、それに連邦議会などワシントン市内やその周辺にある様々な場所を案内してくれた。現地の学生とともに直接その環境に入ったからこそ、テレビや新聞の報道からだけでは知りえないアメリカの格差社会の現状を垣間見ることができたり、生身のアメリカ人の心を知ることができた。どんな国の人々ともそうだが、直接ふれあうことで、深い相互理解が得られる。国籍を超えた「地球人」であるという自覚を持って、未来への希望を担っていきたく改めて感じた研修だった。

考え方の違いに触れ、世界観が広がった

国際経済学科1年 西山 猛

アメリカン大学での研修は、今までの自分が日本という井の中の蛙であったことを思い知らされる体験だった。そして、それは同時に、新しい世界観・価値観を掴むきっかけを与えてくれた。アメリカン大学には多くの異なった国から来た学生たちが集まっていて、年齢も高校から現役で入学してきた19歳の学生から50代後半の学生までと多様なバックグラウンドを持っていた。他愛のない会話ひとつにおいても、様々な意見やアイデアが飛び交い、本当に国や世代、そしてその人が持つ文化的背景によって考え方が違うということを実感することができた。それはまるで皆それぞれが自分の国を代表する人として意見を出し合う小さな国連会議をしているような光景で、そんな場面に毎日立ち会えることが、僕には面白くてたまらなかった。彼らと関わった期間は短かったものの、彼らからは様々な考え方や価値観など、日本には得られない貴重な体験をさせてもらった。その結果、物事をより客観的に見たり考えたりすることができるようになったと思う。自分の中に新たな世界を作り上げることができた。それがアメリカン大学研修の最大の魅力だと言える。



多様な価値観が
交差するキャンパス。
自分の中に
新しい世界が生まれた

プログラム

Aug 1	Arrivals & Campus Tour
Aug 2	10:00-12:00 Morning Classes 12:00-13:30 Lunch 13:45- Scavenger Hunt on the National Mall
Aug 3	9:30-12:00 Morning Classes 12:00-13:00 Lunch 13:00- Guest Speaker : International Communication 14:00- Meet Conversation Partners
Aug 4	Washington Nationals Game@RFK
Aug 5	Free Day
Aug 6	9:30-12:00 Morning Classes 12:00-13:00 Lunch 13:00-14:00 Guest Speaker : International Development 14:00-17:00 Conversation Partners



Aug 7	9:30-12:00 Morning Classes 12:00-13:00 Lunch 13:00-14:00 Cross Cultural Communication 14:00-17:00 Conversation Partners
Aug 8	9:30-12:00 Morning Classes 12:00-13:00 Lunch 13:00-13:45 Guest Speaker : US Foreign Policy 14:00- Field Trip
Aug 9	9:30-12:00 Morning Classes 12:00-13:00 Lunch 14:00-17:00 Visit to Embassy of Japan
Aug 10	9:30-12:00 Program Evaluation 12:00-13:30 Lunch 14:00-16:00 Conversation Partners 19:00-22:00 Farewell Dinner
Aug 11	Free Day
Aug 12	Departures

2007年8月実施予定のプログラムです。



米連邦議会議事堂

チェンマイ大学

Chiang Mai University



タイ北部に位置する名門チェンマイ大学は、タイでバンコク以外の都市に設立された最初の国立大学で、北部地域の教育・研究拠点としての役割を担っています。国際交流にも積極的で、青山学院大学とも交換留学の協定を結んでいます。

約2週間にわたって行われる研修では、英語による講義でタイの農業や経済開発、NGOの役割など地域が抱える問題や課題について学びます。現地の寺院や少数民族の農村、さらに国境地帯などを訪問するスタディ・ツアーもあり、東南アジアの地域社会や文化を目のあたりにすることで、経済開発や国際協力のあり方について体験を通して理解することができる内容です。

単位認定

研修中の評価と、レポート等を提出し、所定の手続きをすることにより、所属学科の「国際政治学特殊講義」、「国際経済学特殊講義」あるいは「国際コミュニケーション特殊講義」として2単位修得可能。



オレンジ色の屋根で統一された校舎

すべてを包み込む
雄大な自然。
現地の人々との
ふれあいを通して
コミュニケーションの
原点に触れた



言葉の壁を超えて掘んだ“コミュニケーション”の可能性

国際政治学科2年 手島 聖太

澄み渡る空、照りつける太陽、吹き抜ける風。長い空の旅を終え、私たちが待ち受けていたのはこの圧倒的な自然であった。あらゆる物が逞しい生命力を持ち、全てを溶かさんとする赤い太陽の徹底的な攻撃に抗して汗を流していた。「タイの空は東京の空より高いんだ」と、共に旅した仲間の一人が空を見上げながら感動した面持ちで呟いた。おそらく雲の高さと高層ビルが少ないことによる錯覚であろう。しかし、私はそれをとてもロマンティックだと思う。この天を仰げば、そんな高く透明な空が彼方まで続いているのだ。

私は、常々コミュニケーションを勉強する必要性の有無を考えていた。勉強によって得られるものではないと頃から考えていたからである。今回の短期留学において地元の学生や先生方、また市場の方たちとのふれあいによってコミュニケーションとは何たるかを掘りまきかけとなった。人は人であり、それ以上も以下も無い。互いに許しあうことが大切なのだ。この空の下では誰もが人間という動物に限定されている。言葉の枠を超えて心を通じさせることは可能であった。

私を含め、今回のタイ研修に参加したのは20人の学生である。今まで話したこともない無き相手も多かったのだが、終わってみれば、学校で会えばお互い声を掛け合い、近況を報告しあうかけがえのない友となった。私はこの体験をこれからも大切にしたい。

今回の研修でお世話になったスタッフの皆様、先生方、現地の人たち、又20人の仲間へ感謝を申し上げます。

プログラム

- Feb 19** Arrivals
- Feb 20**
 - 8:15 - 8:45 Introduction to Seminar
 - 8:45-10:15 Lecture: Thai Language
 - 10:30-12:00 Lecture: Agriculture in Northern Thailand
 - 13:00-14:15 Lecture: Village Industry (One Tambon One Product)
 - 14:30-16:00 Lecture: Thai Language
 - 18:00- Reception Dinner
- Feb 21**
 - 8:45-10:15 Lecture: Thai Language
 - 10:30-12:00 Lecture: Village Economy in Thailand
 - 13:00-14:15 Lecture: Thai Politics and NGO
 - 14:30-16:00 Lecture: ASEAN and Greater Mekong Subregion
- Feb 22**
 - 8:45-10:15 Lecture: Northern Environmental Issue
 - 10:30-12:00 Lecture: Bio-Diversity in Thailand
 - Afternoon Trip to Doi Suthep Temple & Aids NGO



- Feb 23**
 - 8:45-10:15 Lecture: Thai Society
 - 10:30-12:00 Lecture: Buddhism in Thailand
 - Afternoon Trip to Temples in Chiang Mai
- Feb 24** Study Tour along Thai borders
- Feb 25** Visit Hall of Opium & Golden Triangle
- Feb 26**
 - 8:45-10:15 Lecture: East Asian Community
 - 10:30-12:00 Lecture: Community Forest
 - 13:00-14:15 Lecture: Thai Economy
 - 14:30-16:00 Lecture: Hill Tribes in the North of Thailand
- Feb 27**
 - 8:30-16:30 Visit the Northern Study Center of Sufficiency Economy
- Feb 28**
 - 9:10-11:00 Visit Botanic Garden
 - Afternoon Visit OTOF Village
- Mar 1**
 - 8:30-14:00 Report Presentation and Evaluation
 - 17:00-20:30 Farewell Party
- Mar 2** Departures

2006年2 - 3月実施時のプログラムです。

NGOの活動を目の当たりにしてタイの本当の姿が見えた

国際経済学科2年 伊藤 友美

このような体験レポートを書くのは非常に難しい。なぜなら、私がチェンマイ大学の研修を通して見聞きし、感じ、得たことは、このように手短かに語ることは決してできないほど、あまりに多く、あまりに素晴らしいものだったからである。

特に印象に残っているものを挙げるならば、日本人女性が立ち上げたAIDS孤児を支援するNGOや、山岳民族の子供たちに対する教育を支援するNGOを見学させて頂いたことである。これらの訪問を通じて、日本では決して知ることのできないタイの本当の「現状」を垣間見ることができた。

他にも、素敵な体験は枚挙に遑がない。一緒に参加したメンバーは掛け替えのない友人となったし、優しく知識豊富な教授と出会うこともできた。現地の人々の生活にも触れることができ、私の「常識」が常識ではない世界の存在を知った。そのことは自分の無知を知ることでもあった。無知であることは、それ以降の大学生活に対するやる気を駆り立ててくれた。

後の大学生活にも大きく影響を与えてくれたこの研修であるが、ひとつだけ確実に言えるのは、タイで過ごした時間は、私の大学生活においてもっとも充実した時間になったであろうということである。



私の“常識”が常識ではない世界との出会い。自分の無知を知ることによって、大学生活へのやる気を駆り立てられた



国連本部

United Nations Headquarters



ニューヨークに位置する国連本部では、「世界の平和と社会・経済の発展に協力する」という使命のもとに世界各地から集まった職員が働いています。1945年に正式に発足した時に51カ国だった加盟国は、今では190カ国以上となり、世界規模の問題について各国の立場を尊重しながら解決策を探る舞台となっています。

春期休暇中に約1週間の日程で行われる国連研修では、人道支援や開発、安全保障(PKOと軍縮)など国連が取り組んでいる様々な課題についての講義やブリーフィングを、国連職員から直接受けることができます。また、日本の国連代表部を訪れる機会もあり、国際政治の最前線で活躍する外交官から、国連における日本の役割について直接話を聞くこともできます。将来、国連や国際機関で働くことを目指す学生にとって魅力的なプログラムです。



マンハッタンにそびえ立つ国連本部ビル

現場の生の声を
聞くことで、
国連職員への
夢が膨らんだ



国連日本代表部で

日本人職員の活躍を知り、将来への励みに

国際政治学科3年 田中 陽子

国際政治を学ぶ上で、国連は頻りに取り上げられる国際機関なので、人道支援やPKO、さらに軍縮などさまざまな活動を通して世界平和の維持に貢献しているという知識はありましたが、具体的にどのように運営されているのかという点についてはあまり知る機会がありませんでした。

国連研修に参加して、国連で働く職員の方々の実際の仕事の状況や直面している問題など、現場の生の声をきくことができ、国連がぐっと身近に感じられるようになりました。実際、研修が行われた時期は、ちょうど国連事務局の改革に関するアナン前事務総長のレポートが提出されたばかりで、事務局内が騒然とした状況であることを職員の方の話から感じ取ることができたのは貴重な体験でした。

私は将来国連で働くことに興味を持っているので、どのような経験をもった人たちが事務局で働いているのか、アドバイスも交えて聞くことができたこともよかったと思います。

また、日本人職員の方が国連の様々な分野で働いているのを知って、今後、国際政治をより深く学び、将来に繋げていきたいという気持ちの大きな励みにもなりました。

単位認定

国連研修では単位の認定は行っていません。

プログラム

Mar 12	Arrivals
Mar 13	9:00- 9:45 UN Pass Office (Photo ID) 10:00-11:00 Guided UN Tour 11:15-12:00 Orientation 12:00-12:45 UN Library Introduction 14:00-14:30 Greeting Session 14:30-15:30 Political Affairs I 15:30-16:30 Political Affairs II
Mar 14	10:00-11:00 Development I 11:00-12:00 Development II (Economic Development) 14:30-15:30 Peacekeeping I 15:30-16:30 Peacekeeping II
Mar 15	10:00-11:00 Humanitarian Affairs I (UNICEF) 11:00-12:00 Disarmament 14:30-15:30 Humanitarian Affairs II 15:30-16:30 UN Budget
Mar 16	10:00 Japanese Mission 14:30-17:00 Research & Presentation
Mar 17	Free Day
Mar 18	Departures



高層ビルが立ち並ぶニューヨークの街

2006年3月実施時のプログラムです。

食事風景からも感じられる“国連らしさ”

国際経済学科3年 筒井 文理

私が国連研修を通して感じたことは、ひとつはやはり国連はグローバルなフィールドであるということ。そしてもうひとつは、国連の中で働く日本人職員の方の日本人意識です。

グローバルなフィールドというのは想像通りで、各国から集まった多くの人が国連職員として活躍していました。国連の食堂で昼食を取っていると、周りでは全く違う国の人同士と一緒に食事をしながら語り合っていました。私はこのシーンこそが国連だな、と感じました。

もうひとつの日本人意識は、国連職員の方から聞いて印象に残った話です。国連で働いていると、コミュニケーションのほとんどが英語で行われることもあり、普段の仕事で相手の職員がどこの国の出身かはほとんど意識することは無いとのことでした。しかし、日本人職員同士と一緒に食事をすると、考え方など日本を強く感じることがある、と話されていました。このようにグローバルな環境の中で日本を感じる瞬間があるということが面白いと感じました。

国連研修では、普段の生活では中々出会うことのできない人や、訪れることのできない場所に行き、直接肌で感じる事ができたという意味で、非常に貴重な経験となりました。



戦争否定を表現するオブジェの前で

国籍や人種を超えて
活躍できる
グローバルな
フィールドを実感

資料

日程	研修	参加者数				参加費 (単位:円)	
		学科	学年	参加者	合計		
2006年	2月19日 3月5日	チェンマイ大学	国際政治	1年	12	20名	200,000
			国際経済	1年	8		
	3月12日 3月19日	国連本部	国際政治	1年	2	14名	240,000
				2年	3		
			国際経済	1年	4		
				2年	5		
	8月1日 8月14日	アメリカン大学	国際政治	1年	7	20名	350,000
			国際経済	1年	9		
			国際コミュニケーション	1年	4		
	8月1日 8月18日	メリーランド大学	国際政治	1年	4	20名	390,000
				2年	5		
			国際経済	1年	4		
			2年	5			
		国際コミュニケーション	1年	2			
2007年	2月19日 3月3日	チェンマイ大学	国際政治	1年	16	30名	220,000
			国際経済	1年	12		
				2年	1		
			国際コミュニケーション	1年	1		
	3月11日 3月18日	国連本部	国際政治	1年	5	18名	250,000
			1年	8			
国際経済			2年	5			

全ての研修に本学部の専任教員が引率者として同行します。

